

第4章 今後の取り組み

1 中間評価からみえた成果と課題

中間評価の結果、ベジタベライフ協力店数や子どもの肥満割合の減少、子どもの野菜摂取量の増加、人工透析の患者割合の減少等、一定の成果が見られました。しかし、世論調査、国民健康保険データ等の分析から、区民の野菜摂取量やヘモグロビンA1c 7%以上の割合、糖尿病の合併症予防等の課題は依然として存在しています。これらの課題について各関係部署・関係機関と連携を強化し、更なる改善を図っていきます。

【成果】

- ① 区民全体の野菜摂取量は横ばいだが、30歳代の野菜摂取量は増加傾向
- ② 他都市と比較して子どもの野菜摂取量は増加
- ③ 国民健康保険の40～74歳の特定健診結果でヘモグロビンA1c 7%以上の者の割合は、国と比較して着実に減少
- ④ 国民健康保険の40～59歳の特定健診結果でヘモグロビンA1c 7%以上の未受診者への働きかけの結果、ヘモグロビンA1cの結果が改善

【課題】

新たな課題

(1) 野菜を食べること、野菜から食べることを推進

- ① ベジタベライフ協力店が野菜を扱う店舗の1割、600店に留まっている。
- ② 区民の1日の推定野菜摂取量は220gで若い世代ほど野菜を食べていない。
- ③ 世論調査で野菜から食べる効果の認知は約80%に上るが、野菜から食べているのは約65%に留まっている。
- ④ 朝食に野菜を食べる区民が少なく、1日1回しか野菜を食べない20歳代男性は77%に上る。
- ⑤ 区内中小企業等への働きかけが不十分。

(2) 野菜から食べるなどの良い生活習慣の定着を乳幼児期から推進

- ① 野菜から食べているのは保育園児 36%、小4 9.2%、中2 22.1%であり、半数にも満たない。
- ② 適正体重の区民割合は年齢が増すごとに減少。
- ③ 健診で何らかの所見がある区民割合は年齢が増すごとに増加。
- ④ 生活習慣病のリスクを4項目以上保有している人で1日野菜摂取量が200g未満の人は59.9%。

(3) 糖尿病を重症化させない取り組みを推進

- ① ヘモグロビンA1c 7%以上の40～59歳で内服や注射をしていない国保特定健診受診者は34.9%。
- ② 合併症予防のために眼科受診をしている人はわずか26.7%、歯科受診をしている人は47.4%で半数にも満たない。
- ③ 特定健診未受診者で生活習慣病リスクの有所見者が90%を超えている。

2 糖尿病対策の基本指針

中間評価の結果を踏まえ、足立区糖尿病対策アクションプランは引き続き下記の3点を基本方針として対策を講じていきます。

- (1) 野菜を食べること、野菜から食べることを推進
- (2) 野菜から食べるなどの良い生活習慣の定着を乳幼児期から推進
- (3) 糖尿病を重症化させない取り組みを推進

(1) 野菜を食べること、野菜から食べることを推進 (→P 33) 継続

健康に関心がない人でも足立区に住んでいれば自ずと健康になれるよう、まずは野菜が食べやすくなる環境づくりを民間企業・団体と協力しながら進めていきます。

New

- ① ベジタベライフ協力店を600店舗から900店舗へ増やし、野菜を食べることが当然の地域づくりを強化する。

New

- ② 若者の利用が多いコンビニエンスストアや飲食店・小売店などと協力し、野菜を食べやすい環境づくりを推進する。

- ③ ベジタベモーニングなど朝食に野菜を食べられる飲食店を増やすなど、朝食に野菜が食べられる環境づくりを行う。

New

- ④ 健康経営実施企業への支援の仕組みづくりを行う。

(2) 野菜から食べるなどの良い生活習慣の定着を乳幼児期から推進 (→P 36) 継続

子どもに対しては「ひと口目は野菜から、野菜を3食たべる」ことが、努力ではなく新たな食習慣として根づくよう、子どもに関わる部署や地域住民と連携し、子ども自身や保護者などに対して継続した啓発を行います。

New

- ① 「おいしい給食・食育対策編」で中学卒業までに、足立区の全ての子どもたちに身につけて欲しい健康に生き抜く食の実践力を「食のスタンダード」として定め、子どもの頃からの糖尿病予防に取り組む。また、子どもへの取り組みを通じて保護者や関係する大人への波及を目指す。

- ② 「歯科口腔保健対策編」の中で子どもたち自らが自分の歯や口腔の健康習慣を習得できるよう支援する。

(3) 糖尿病を重症化させない取り組みを推進 (→P 39) 継続

糖尿病を悪化させないためには、生活習慣の見直しと定期的な健診や医療機関受診が必要です。医師会、歯科医師会、薬剤師会と連携し、糖尿病を重症化させない取り組みを進めます。

- ① 糖尿病と診断された患者が眼科や歯科へ受診するよう啓発を強化する。

- ② 医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携を強化する。

New

- ③ 治療情報を分析し医師会や関係機関へ提示し、互いに再評価する。

New

- ④ 重症化予防専門チーム編成の検討を行い、現在約200名の訪問数を500名に増やす。

3 糖尿病対策の体系図

1 野菜を食べること、野菜から食べることを推進

(1) 野菜から食べやすくなる環境づくり

- ① 北足立市場における野菜取引高の維持
- ② 区内の JA 東京スマイル各支店での野菜販売
- ③ あだちベジタベライフ協力店、企業との連携
- ④ 1食分・1日分の野菜やサラダ等惣菜の製造販売
- ⑤ 簡単野菜レシピ啓発
- ⑥ あだち食の健康応援店

(2) 働く人の食環境の整備と健康づくりの推進

- ① 野菜摂取の効果等啓発用のチラシ配布
- ② 特定給食施設指導

(3) 区民への啓発・周知を進める

- ① 広報や SNS 等を活用した啓発
- ② 商店街や関係団体、公共施設等と連携した啓発
- ③ 健康づくり推進員や食育サポーターによる啓発
- ④ 区役所食堂や区内大学等における「野菜からかむカムランチ」での啓発
- ⑤ 職員への啓発

2 野菜から食べるなどの良い生活習慣の定着を乳幼児期から推進

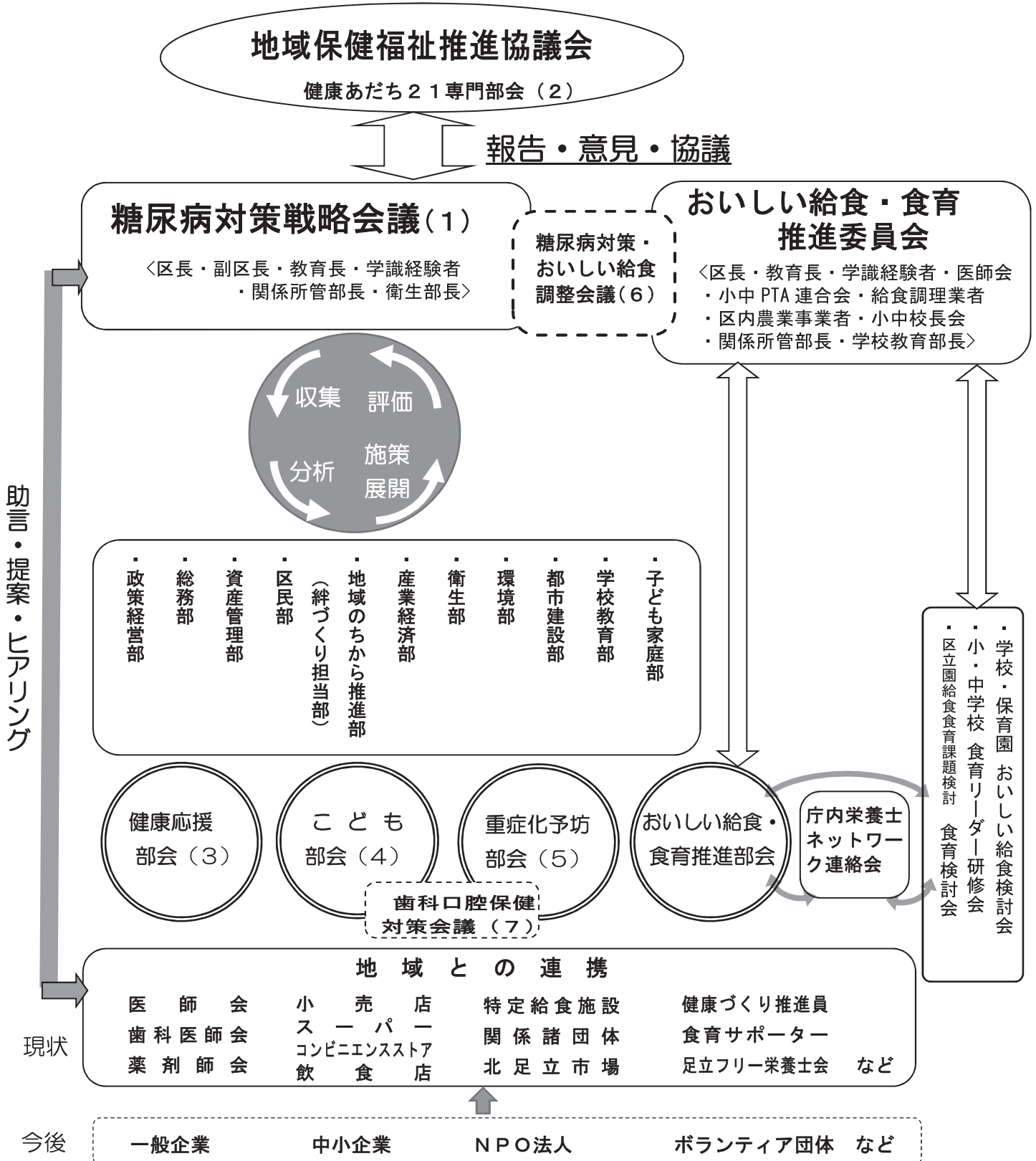
① 乳幼児健診での啓発
② 保護者への啓発
③ 野菜に親しむ体験
④ 保育園や小中学校での「ひと口目は野菜から」の声かけ
⑤ 幼稚園保護者向け栄養教室
⑥ 保育園や小中学校での野菜の日の設定と啓発
⑦ 高校生向け栄養教室
⑧ 小児生活習慣病予防健診及び生活習慣改善指導の実施
⑨ 健康な永久歯を育成する取り組み
⑩ 「8（歯ち）がつく日はかむカムデー」の取り組み
⑪ 統計資料の収集・分析
⑫ 庁内栄養士間の情報共有・一貫性のある取り組み
⑬ 合同おいしい給食検討会

3 糖尿病を重症化させない取り組みを推進

① イベントや各種媒体を活用した啓発
② 特定健診未受診者や小中学校保護者への受診勧奨
③ 生活習慣病リスクのある対象者への生活改善指導
④ 特定保健指導未利用者への利用勧奨
⑤ 40歳前の健康づくり健診での要受診者への受診勧奨 及び生活改善指導
⑥ 糖尿病眼科健診の実施
⑦ 糖尿病未治療者への受診勧奨
⑧ 糖尿病重症化予防をはじめとした栄養指導
⑨ 糖尿病と歯周病の関連についての啓発
⑩ 糖尿病性腎症の重症化予防

4 糖尿病対策アクションプランの推進体制

アクションプランに基づく糖尿病対策は、おいしい給食・食育対策編及び歯科口腔保健対策編とともに次の体制により推進していきます。今後は健康経営の視点も入れて、参加関係団体を増やし協創のプラットフォームづくりを進めます。



(1) 「糖尿病対策戦略会議」(年1回程度)の開催

- ① 庁内関係部署と糖尿病対策の進捗状況の確認、課題・情報の共有
- ② 区民の糖尿病の現状や生活習慣に関するデータの分析と評価を行い、外部助言者に今後の糖尿病対策の方針について意見を伺い検討

(2) 「健康あだち21専門部会」(年2回)の開催

- ① 地域の健康関連団体代表者へ糖尿病対策の進捗状況の報告と課題・情報を提供し、各団体と意見交換
- ② 学識経験者より糖尿病対策事業についての評価や実施について意見を伺い事業へ反映

(3) 「健康応援部会」(年1回程度)の開催

- ① 野菜が食べやすい環境づくりに関わる団体の代表へ糖尿病対策の進捗状況の報告と課題・情報を提供
- ② 各団体の事業実施状況の確認と課題の共有

(4) 「こども部会」(年1回程度)の開催

- ① 子どもに関わる部署や関係者へ糖尿病対策の進捗状況、子どもの健康の現状について情報提供や課題を共有
- ② それぞれの事業について報告、課題等の検討

(5) 「重症化予防部会」(年2回程度)の開催

- ① 糖尿病治療に関わる医療関係団体の代表への糖尿病対策の進捗状況の報告と課題・情報を共有
- ② 糖尿病対策事業についての意見交換と協力の依頼

(6) 「糖尿病対策・おいしい給食調整会議」(年1回程度)の開催

- ① 庁内関係部署と進捗状況の確認、課題・情報の共有
- ② 「糖尿病対策戦略会議」「おいしい給食・食育推進委員会」と課題共有

(7) 「歯科口腔保健対策会議」(年1回程度)の開催

- ① 庁内及び関係医療機関と進捗状況の確認、課題・情報の共有
- ② それぞれの事業について報告、課題等の検討

5 成果指標

健康寿命の延伸

成果指標		実績	目標値
		2015年度 (平成27年度)	2022年度
健康寿命（厚生労働省健康寿命算定プログラム、平均自立期間）	男性	77.49歳	78.9歳
	女性	82.31歳	83.3歳
区民の平均野菜摂取量（BDHQ）		220g (平成28年度)	280g

(1) 野菜が食べやすくなる環境づくり

成果指標			実績	目標値
			2016年度 (平成28年度)	2022年度
あだちベジタベライフの認知割合（世論調査）			30.6%	60%
野菜から食べている区民の割合（世論調査）			64.7%	80%
区民の1日あたりの推定野菜摂取量（BDHQ）	20歳代	男性	139.2g	200g
		女性	192.7g	255g
	30歳代	男性	261.6g	320g
		女性	244.7g	305g
	40歳代	男性	183.7g	255g
		女性	202.8g	260g
50歳代	男性	232.3g	295g	
	女性	257.3g	320g	
ベジタベライフ協力店数（3月末）			607店舗	900店舗

(2) 野菜から食べるなどの良い生活習慣の定着を乳幼児期から推進

成果指標		実績		目標値
		2016年度 (平成28年度)		2022年度
肥満の子どもの割合（肥満度） (低減目標)	3歳児		1.1%	減少傾向へ
	小1		4.5%	4%
	小6	男子	11.7%	10%
		女子	10.6%	8%
	中2	男子	10.2%	8%
		女子	10.7%	7.5%
朝食を食べる人の割合 (東京都統一体カテストにおける足立区の生活・運動習慣等調査)	小1		94.2%	100%
	小6		88.4%	100%
	中3		82.2%	100%
むし歯がない子どもの割合 (処置済みを含む) (3歳：3歳児健診) (小1：学校歯科健診)	3歳		86.4%	90%
	小1		59.8%	65%
永久歯にむし歯がない生徒の割合（学校歯科健診）	中1		65.1%	70%

(3) 糖尿病を悪化させない取り組み

成果指標		実績		目標値
		2016年度 (平成28年度)		2022年度
足立区国民健康保険	40～74歳の特定健診受診者で HbA1c 7%以上の割合（低減目標）		4.77%	4.5%
	40～74歳の特定健診受診者で HbA1c 8%以上の割合（低減目標）		1.66%	1.3%
	糖尿病を主傷病とする人工透析新規導入者数（低減目標）		62人 (暫定値)	50人
新規透析導入患者数（難病医療費助成申請）		264人		233人